

Gon was a lonely little fox.

His parents had passed away when he was little and he had no siblings. He was living in a den inside the forest filled with ferns.

Gon was a naughty fox.

He was doing so many nasty things, such as going down from the mountain to a village and digging up potatoes at the farm. He even pulled off red peppers hung at back of the farmer's house.



One day in Fall.

Because the rain had finally stopped after two to three days continuously, Gon jumped out of the den very happily and went down the mountain.

Water-drops from the rain were shining on heads of silver grasses at the side of a path.

When he went down to the riverbank, he found Hyoju standing in a river up to his waist and holding a fishing net.

Hyoju pulled up the fishing net and there was a fat eel and some large sand borers mixed in some leaves and pieces of wood.

Hyoju put the fishes into the fishing basket and climbed up the bank. He took the net and went into the river again.



ごんは、ひとりぼっちの こぎつね でした。

りょうしんは ごんが ちいさいときに なくなり、
きょうだいも いません。

しだの いっぱい しげった もりの、
あなの なかで くらしていました。

ごんは、いたずらぎつねでした。

やまから おりて むらに いっては、
はたけに はいって いもを ほりかえしたり、
ひゃくしょうの いえの うらてに つるしてある
とんがらしを むしったりと、
いたずらばかり していました。



ある、あきの ひの ことです。

に、さんにち ふりつづいた あめが やみ、
ごんは おおよろこびで そとへ とびだし、
やまを おりていきました。

みちばたの すすきの ほには、まだ、
あめの しずくが ひかっていた。

おがわの ほとりまで くと、ごんは、かわの なかに
はいり、こしまで みずに つかりながら、
あみを てにしている、ひょうじゅうを つけました。

ひょうじゅうが あみを もちあげると、
なかには くさの はや きぎれに まじって、
ふとい はらの うなぎや、おおきな きすが
はっていました。

ひょうじゅうは、とった さかなを びくに いれ、
どてに あがると、また あみを もって、
かわの なかに はいっていきました。

